

団長の心のものさし

ワクワク！
ドキドキ！
トキメキだ！

道楽と言われても仕方ない!?

一つの作品を取り上げるために数多くの楽譜を見て音源を聴く。その時間は膨大だ。手っ取り早く手に入る楽譜でいとも簡単に選曲する人もいるだろう。しかし、至って簡単な結論だが、候補は多ければ多いほど優れた作品をチョイスできるのである。プロデューサーが良ければ、その後の演奏活動、内容にいい影響を与えることも明白だ。

いつもの論調になってしまうが、好みは問題にしていない。ただ、社会を知り世の中を感じれば、人々が何を求めているのかを知ることは決して困難な作業ではない。それはプロデューサーの仕事だ。人から見れば余分な、遠回り、寄り道と思われるでも仕方がないようなことでも“真

剣に、向き合わなければ何も得られないのである。芸術活動が“道楽”と呼ばれてしまう所以だろう。仕方ない。実際に“真剣に、”やっている人は少ないと思うからだ。それが悪いわけではない。ただ、それでは本当に周囲から認めてもらえるような活動にはならないのではないだろうか。時間もお金もあって、その余裕から出来る活動だとしたら…確かに道楽だ。

ハングリーであれ！

もっとハングリーなものでなければ！とよく感じる。ハングリーだからこそ、どんなことでも嬉しく楽しく向き合える。美味しくいただけるわけである。どんな世界があるのだろうか？とワクワクするのである。どんな人と出会えるのだろうか？とドキドキするのである。そんなトキメキがなくて音楽が出来るか！と叫びたくなる。

「青年よ、大志を抱け！」…今の日本と



多くの合唱の仲間と出会える

うたおにの4月22日(木)の様子

練習内容
The Blue Bird
Earth Song
Amazing Grace

たかが6分、されど6分である。合唱祭は三重県中の合唱愛好者たちが集まってくる祭典だ。あまり深く考えなければ、合唱に興味を持っている、通が集まってくる演奏会なの

である。そんな聴衆の前で何を歌い、何を伝えるのか。コンクールが何かと注目される中で、うたおには脱藩に近い状態(笑)。9月には自主公演が予定されているから、この合唱祭での作品のチョイス、演奏の出来不出来は集客にも少なからず影響が出る。そして何より、うたおにはいつも問い続けていかなければならない。合唱活動とは…と。

いう国では
まだまだそんな環境が整備されているとは思わない。だからパイオニアになる



仲間が集まれば盛り上がる

ことはあまり望まない。多くのリスクをかかえるだろうから。ただ、応援だけはしてやってほしいし、しなければいけないだろう。

志ある人々を応援しよう！

多くの音楽を志す人がいる。その強い思いを持った人は、音楽の世界において必ずリーダー的な立場に立って、多くの人を先導していくことができるだろう。やりたいことを率先して前に立ってやりきる人…そんな人たちのお陰なのだ。



映画の試写会で歌ったことも

やりたいことはある、だけど応援はしない、では些(いささ)か都合がよ過ぎではないか。

仲間の合唱団や音楽家の演奏会に足を運ぶこと、チケット販売に協力する、裏方でお手伝いをする等々、すべて自分たちの活動と強く結びついている。うたおにだけの“一人勝ち”は絶対にしてはならない。周囲も盛り上がってこそ、本当の意味で“盛ん”と呼べるようになるのだ。自分たちがより良い音楽を実現したければ、周囲の音楽環境を充実させなければならぬ。青臭いが「～と共に！」ということに他ならない。巻き込まなければいけない。



いろんな場所によって客層は変わる変化に対応する力こそ音楽だ